堀切から見る金山城の防御の工夫

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校４年　野口遥菜

１.はじめに

この研究は、現在の群馬県太田市金山町に位置する金山城の防御力の高さについて、地質の面から考察したものである。1469年に岩松家純が築城したとされる(松陰,2011)

金山城は、文明元年（1469 年）岩松家純によって独立丘陵の金山に築かれた城である。代々岩松氏が城主であったが、享禄年間（1528～1532）に下剋上により横瀬氏（のちの由良氏）が城主となる。永禄 8 年（1565 年)、天宝 2 年（1574 年）に北条氏と上杉氏に攻められたが、由良氏が撃退する。由良氏が穴山を支配下に置いていた時代に、十数回ほど攻撃を受けたことがあるが、一度も城の中枢まで攻め込まれることはなかったとして、堅牢さを誇っている。だが、天正 12 年（1584 年）に北条氏の支配下に入り、天正 18 年（1590 年）に小田原合戦によって北条氏が滅ぼされて金山城は開城する。その後、由良氏は国替えされ、金山城は廃城となった(太田市教育委員会,2018)。

また、金山城は主に 4 段階の改修、拡張を重ねて、現在考えられる規模の山城になったとされているが、堀切が築かれたのは 1495 年頃だとされている。堀切とは敵の侵入経路である山の尾根に、その侵攻を阻むために造られた空堀のことであり、調査をして確認した金山城の堀切の個数は尾根を断ち切って造られていることで、守る側は攻める側を見下ろすことができ、攻めにくく守りやすい構造となっている(太田市教育委員会,2018)。

金山城には尾根沿いに多くの堀切が存在しており、本研究では地形を利用して作られた堀切が金山城の防御力の根底にあると考え、それを証明することを目的としている。Google Scholar による文献検索で先行研究を調べたところ、堀切に着目した金山城の研究が見られなかった。堀切に着目した新たな視点で金山城を見ることができるのではないかと思ったため、このテーマで研究をすることにした。他の山城と比較したり、堀切の考察を行ったりすることで、金山城の堀切の効果を調査した。

２.研究方法

研究方法は以下の通りである。

(1) フィールドワークによる堀切や金山の地形の調査
- 堀切に番号を振り、地図に落とす
- 地理院地図でグラフを作成する

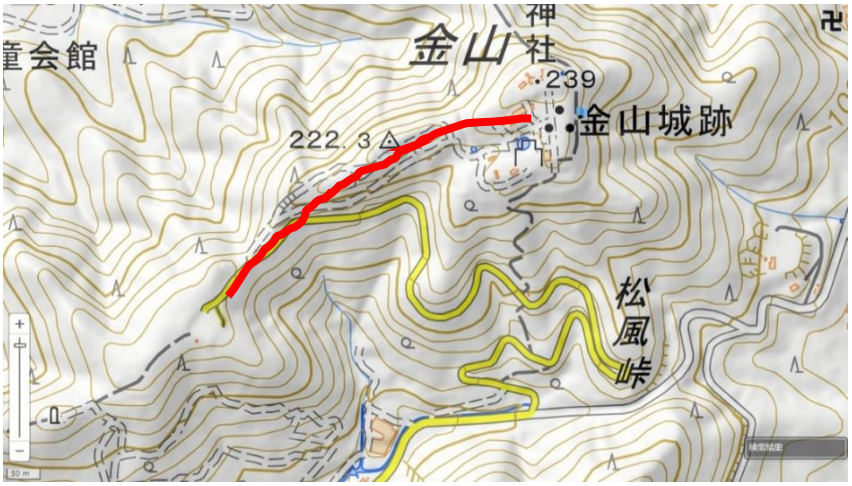
(2) 金山城との比較対象となる山城の文献検索と比較

３.結果

今回研究を進めるにあたり、それぞれ異なる方角から金山城を登り、フィールドワー

クを行った。

○Aルート



（図１）地理院地図金山城本丸周辺地図

まずフィールドワークのＡルートだが、図１は金山城の本丸付近の地図（地理院地図）であり、図１の横幅の距離は約 1.2km、縦幅は約 660m、上方向が北となっている。

この回では、金山城跡を上記のルートでフィールドワークをした。途中にある駐車場から登り、本丸跡で折り返した。本研究では、このルートをＡルートとする。このルートを選んだ理由として、このルートが金山城で最もよく知られる道順であり、金山にある尾根のうち最も主要な尾根であるからということがあげられる。Ａルートでは下の３つの堀切を確認した。

		長さ	深さ	特徴
①	西矢倉台下堀切（外）	約６０ｍ	約 3.0m	加工した岩盤が並ぶ
②	西矢倉台下堀切（内）	約６０ｍ	約 3.0m	斜面に対応する石垣
③	大堀切	約９０ｍ	約 5.0m	金山城最大級 敵にとって最後の堀切

（表１）Ｂルートで確認した堀切まとめ

①西矢倉台下堀切(外)

②西矢倉台下堀切(内)

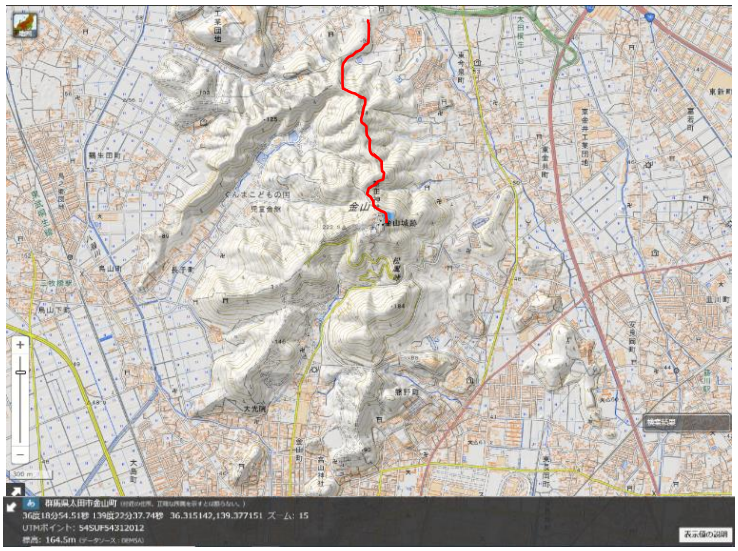
③大堀切

①外側の矢倉台下堀切と②内側の矢倉台下堀切の写真はいずれも尾根をほぼ垂直に切る堀切であり、それを尾根から斜面下側へ向けて撮ったものである。また、③大堀切は本丸へ続く道から垂直に伸びる堀切を横から撮影した。

それぞれの堀切の場所は下図のいずれも尾根沿いに位置しており、堀切①―②間と堀切②―③間の距離はほぼ均等である。一番離れている、西矢倉台下堀切①の外側は本丸から約３００ｍの所に位置している。表から見て分かる通り、本丸に近づくにつれて規模が大きくなっている。

（図２）地理院地図より金山城本丸周辺地図と堀切の場所

○Ｂルート



（図３）地理院地図金山周辺地図

（図４）太田市教育委員会「金山城跡縄張り復元図」より

図３は、金山を主に北部分に注目して切り取った図であり、図３の横幅は約５㎞、縦幅は約３㎞で、上が北となっている。

この回では、上記のルートでフィールドワークをした。山の北にあるキャンプ場の駐車場から登り始め、本丸跡で折り返した。本研究では、このルートをＢルートとする。

事前に太田市役所教育部文化財課からいただいた金山城縄張図（図５）に記載されていた防御施設の印に不明瞭な点があったため、それを確かめるためにこのルートを選び、堀切やその他防御施設の場所を確認することができた。

Ｂルートでは下の５つの堀切を確認した。Ａルートとは違い、各堀切に名称は無かったため、番号で区別をした。

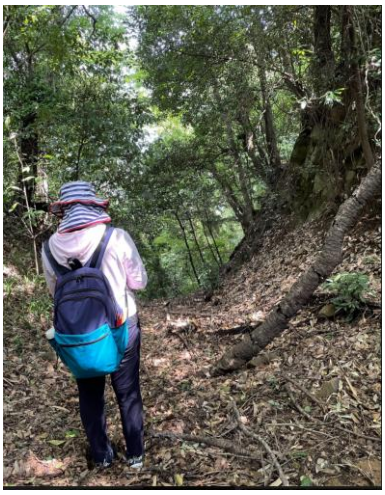
	長さ	深さ	特徴
④	約７０ｍ	約１．９ｍ	相対的に見て深く、両脇に岩石多数
⑤	約４０ｍ	約０．６ｍ	浅く小さい造り
⑥	約５０ｍ	計測不能	両脇が岩盤になっている
⑦	約６０ｍ	計測不能	⑧より長さはないが、深さの規模は⑧くらい
⑧	約１５０ｍ	計測不能	比較的規模が大きい。

（表２）Ｂルートで確認した堀切まとめ

④

⑤

⑥



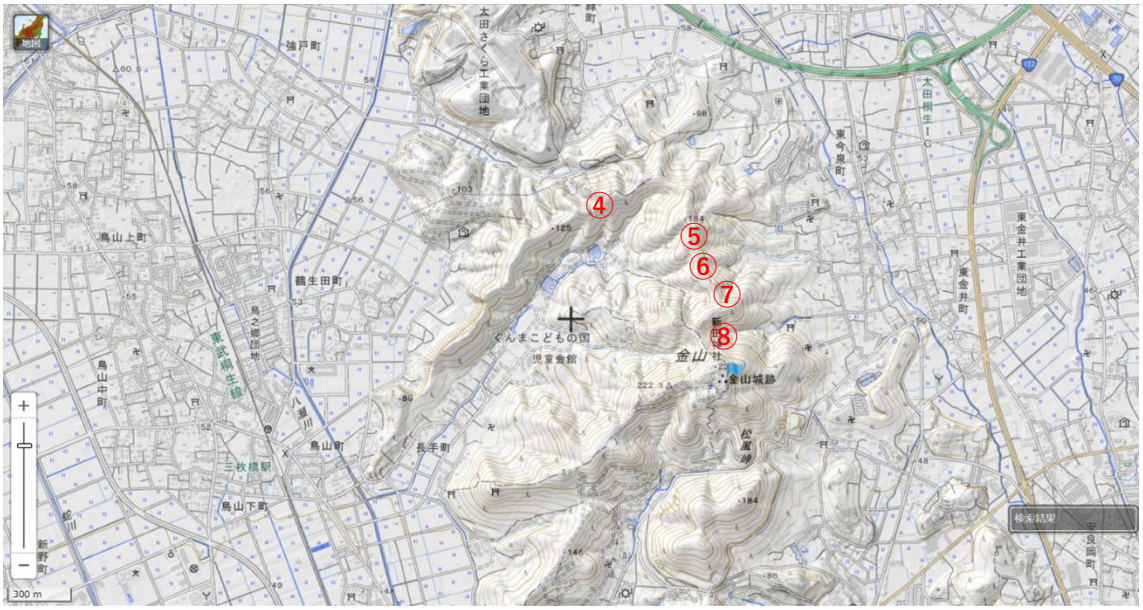
⑦

⑧

堀切④は尾根を垂直に切った堀切を上側から撮影したものである。また、堀切⑤～⑧は同じく尾根を垂直に切る堀切を下に降りて、尾根から斜面下に向かって撮影したものである。

Ｂルートの堀切の特徴は表２の通りとなっている。表中の「計測不能」は、場所によって深さが極端に違っていたり、木や植物で計測ができなかったことを示す。

堀切④から⑧にかけて本丸までの距離が短くなるが、Ａルート同様に堀切の本丸に近いほど大きくなっていることがわかる。



（図５）地理院地図より金山城北周辺地図と堀切の場所

表２で、堀切④が本丸から遠いにも関わらず規模が比較的大きかったのは、堀切④のみ他の堀切と違う尾根に位置しているからだと考えられる。地図から見てわかるように、Ａルート同様に堀切は尾根沿いに分布しており、またＢルートでは堀切は主に尾根のくびれ部分に多いことがわかる。一番遠い堀切④から本丸は約 1.5km 離れているが、本丸に近づくにつれて堀切どうしの距離が近くなっている。

4. 考察

結果で示したように、フィールドワークをして堀切を地図に落とし込んでみたところ、堀切は本丸に近づくにつれて数が増え、頻度も上がっており、規模も大きくなっていることがわかった。堀切は本丸に繋がる尾根沿いに分布しているということから、本丸を守ることを意識した造りであるということが言える。

以上のフィールドワークの結果を踏まえて、金山城の防御力の高さを相対的かつ客観的に証明するために、金山城と地形の形状が似ている他の山城と比較するという方法を挙げた。具体的には、金山のように平地に突き出たような地形をしており、尾根の様子がはっきりわかる城に着目した。それらを考察し、戦歴などの歴史的背景や堀切の有無などを調べて金山城と比較することにした。

まず着目したのは栃木県の唐沢山城である。この城には、約 10 度の上杉謙信による攻撃に耐えたという歴史が残っている。南城と曲輪を分断する大きな堀切が存在しており、かつては橋がかかっていたが、これは敵の侵攻時に引き払われて防御力が増した（佐野市観光協会）。また、小谷城にも着目したが、小谷城には規模の大きな堀切が存在していたものの、その堀切が原因で物資や味方兵の移動が困難になり、城の防御力が低くなっていたことがわかった。最後に着目したのは同じく滋賀県の観音寺城だが、この城に堀切は存在しておらず、歴史的にも「魅せる城」として存在しており、防御力は弱かったことがわかっている。

５. まとめ

金山城と堀切の調査では、本丸に近づくと規模が変化していることがわかりました。ただでさえ攻めにくい防御施設である堀切を、尾根という金山の特徴を生かして作ることでより侵攻しにくい造りにしていることから、金山城は攻めにくく守りやすい「不落の城」と言える。

また、金山城と他の城について堀切のあるなしに関連付け、戦歴との因果関係の文献調査をした結果、堀切は城が位置する山の特徴を生かして作ることが大切であり、金山城はその代表的な例の一つであるという考えに至った。

以上、主に 2 つの調査を行ったことで、金山城の堀切に起因する強さについての研究をすることができた。

謝辞

本研究を進めるにあたり、太田市教育委員会教育部文化財課史跡整備係の中村渉様には、多数の資料を提供していただいた。

四ツ葉学園地域歴史研究会の皆様には、発表のご助言を賜った。また母にはフィールドワークや文献調査において支援いただいた。

多くの方々にご協力いただいたこと、この場をお借りして深く御礼申し上げる。

引用文献

・太田市教育委員会「史跡金山城跡縄張り復元図」「金山城鳥観図」
・太田市教育委員会『不落の城　新田金山城ガイドブック』　2018
・群馬県教育委員会文化財保護課『教材群馬の文化財２　―中世編―』　1981
・太田市教育委員会文化財課『史跡金山城跡保存管理計画書』　2008
・太田市教育委員会文化財課埋蔵文化係『史跡金山城跡環境整備　発掘調査編』　2001
・太田市教育委員会文化財課埋蔵文化係『史跡金山城跡環境整備　整備編』　2002
・地学団体研究会前橋支部上州地学ハイキング編集委員会『上州地学ハイキング』　2020
・松陰『松陰私語』2011
・佐野市観光協会、“唐沢山、唐沢山城跡”、佐野市 HP
https://sano-kankokk.jp/?page_id=783
・滋賀県観光協会、“小谷城跡”、滋賀・琵琶湖観光情報
https://www.biwako-visitors.jp/spot/detail/898/
・滋賀県観光協会、“観音寺城跡”、滋賀・琵琶湖観光情報
https://www.biwako-visitors.jp/spot/detail/886/